

筑波研究学園および隣接山地のきのこについて

大 谷 吉 雄*

OTANI, Yoshio*: Some notes on the Mushrooms collected in
Tsukuba Academic New Town and its Adjacency

筑波研究学園は、クヌギその他の雑木を含むアカマツ二次林を切りひらいて作られた 2700 ヘクタールに及ぶ広大な地域で、40 を越える国立の研究機関、大学、並びにその職員の住宅などの諸施設が建設されている。当国立科学博物館筑波実験植物園内をはじめ、新設された多くの公園や、研究諸機関の庭内には上記二次林の名残りの林が残されており、又在来からの農家所有のクリ、ナシ、ウメなどの果樹園が隣接して存在する。学園の北端は標高 876 m の筑波山とその周辺山地で境されるが、筑波山は シラカン、ヤブツバキ などの暖帯常緑樹林でおおわれ、頂上附近の小地域には ブナ 林も見られる。これらの山地を含め研究学園内には四季を通じ各種のきのこの発生が観察される。筆者が今年 4 月定年退職した国立科学博物館植物研究部植物第 3 研究室は 1977 年 5 月以降新設の筑波実験植物園内に移転したので数年にわたりこの地域に発生するきのこを観察することができた。ここには筆者が採集し、或は実際に観察したきのこについて特に注意を惹かれた事柄について記述し、末尾に筆者の観察したきのこ類のリストを附し、参考に供する。なお当筑波実験植物園職員の方々は園内に発生するきのこを採集して筆者の調べに便を与えられた、ここに記して謝意を表する。

ハラタケ目のきのこ

ハラタケ目のきのこではテングタケ科、テングタケ属のきのこの種類が 9 種を算え、その発生種類数が比較的多いのが注目される。大部分の種類は筑波山及びその周辺山地の林内に発生するが、ヒメコナカブリツルタケは当実験植物園内をはじめ、学園内の所々の公園にも発生を見る。傘の直径は 3~5 cm、表面に灰色の粉をつけたきのこで、茎の基部は小球状にふくれるが外被膜名残りの粉におおわれるだけで明瞭なつばはない。つばもなく、テングタケ属のきのこは気がつかぬ恐れがある。著しい毒性はないようだが食毒不詳の菌である。なおテングタケ属は猛毒菌を含む数多くの有毒種をもつ属だが筆者は未だこの地域で猛毒の種類発生を見ていない。

アミタケ科のきのこも 12 種を算えて数多い。それらのうちアミタケ、チチアワタケ、アワタケの 3 種は当実験植物園内、学園内の公園、住宅附近の林地地上に発生し、いずれも食用に供して味よい種類である。チチアワタケは殊に新鮮なとき、傷つけると白色の乳汁を出す。残りの 9 種はいずれも筑波山やその周辺の山地の林地地上に発生するが、アカヤマドリタケは傘の直径 20 cm あるいはそれ以上になる大型の種類で、ことに真壁町伝正寺裏の俗称きのこ山には 8~9 月の頃によく発生して美事である。又この附近の山地林内では 8 月頃 キアミアシグチの発生を屢々見かけた。傘の直径 5~7 cm、傘の表面は粘性なく、帯黄褐色、管孔及び茎は黄色で、茎の表面には明瞭な網目模様が認められる。肉の色も黄色で苦味がある。ヤマドリタケは殊に欧米で食用菌としてよこばれる種類だが筑波山周辺ではその発生は多くはない。ベニタケ科のきのこもチチタケ属 6 種、ベニ

* 横浜市港北区太尾町 946-1 大倉山ハイム 1-707 Okurayama Haimu 1-707, Futoo-cho, Kohoku-ku, Yokohama, Kanagawa Prefecture.

タケ属7種の計13種でその発生が目立つ。ことに食用菌のハツタケは研究学園建設以前のアカマツを主体とする二次林に著しく発生していたものと思われ、現在も学園内各所に残存する松林で7月下旬頃から採集される。この外当実験植物園を含む研究学園内の林で屢々発生を見るものにクサハツとクロハツタケがある。クロハツタケは成熟すると黒色となるきのこで、そのひだは幅広く、疎生するのが特徴で、肉はかたくて白いが、傷つけると赤味を帯び、やがて黒色に変わる。食用に供してよい食用菌だが、これに頗る酷似するきのこで、傷つけると肉の色は白から赤色に変わるが、後黒色にならないニセクロハツと名付ける毒きのこがある。昨1982年7月8日当筑波実験植物園内で採集され、当初クロハツと考えた1個体のきのこの肉は傷つけると赤く変じたが、普通のクロハツタケのように間もなく黒変することはなく、その赤色は可成りの長期間に亘って保たれた。ニセクロハツではないかとの疑をもち、孢子による識別に努めたがニセクロハツと断定することは出来なかった。クロハツタケも好天氣の続いた場合など色の変化が著しくおそかったり、ほとんど黒色にならない場合もあると聞く。関東にもニセクロハツが発生すると断定を下すにはなお今後の研究にまたねばならぬが本稿末尾のリストには誤食による中毒の発生を注意するため、疑問詞を附して上げておくこととした。ベニタケ科所属のきのこではないがベニタケ類の腐品上に発生するきのこにヤグラタケ属(キシメジタケ科)のきのこがある。研究学園内のクサハツの腐品と思われるものにはナガエノヤグラタケが、そしてクロハツの腐品と思われるものの上にはヤグラタケが屢々発生して注目を惹く。キシメジタケ科のきのこでその発生を確認したものは上記2種のヤグラタケを除き8属12種であるが、その1種のナラタケは当筑波実験植物園北東部に造成中の林内地上に毎年10月上中旬頃著しく多量に発生する。このきのこの菌糸は育成中の若木を害する害菌の1種なので注意を要する。一方このきのこは食用菌としても秀れたものの一つで、研究学園の各所の公園、筑波山及びその周辺の山地にも広く分布する。ナラタケに甚だ似ているがつばがなく、広葉樹の枯幹に叢生するナラタケモドキは殊に関東で屢々見るきのこだが、当実験植物園内と赤塚公園附近でその発生が確認された。ホンシメジは味のよいきのことして有名な種類だがその発生は最近日本各地とも著しく稀となった。昨年谷田部町在住の1婦人が自宅近くの林内で採集して筆者に同定をもとめられた1種は正にホンシメジであった。筆者は未だその発生場所の詳細は知らないが研究学園内には時にその発生が見られるものと思われる。ワサビカレバタケは関東一円に広く分布する種類で研究学園内でも随所に発生する。

以上の外特筆すべききのこの1つはカラカサタケ(ハラタケ科)だろう。7月中下旬頃、当実験植物園北西部の林内のほか、研究学園内の各所の林内地上に発生する、傘の直径20cm内外、全体の高さ30cmにも達する大形のきのこで、傘の表面には褐色の著しい鱗片をつける。茎の上部には厚くて顕著なつばがあり、これは指輪のように上下に動かすことができる。茎はややかたいが傘は食用に供される。これに似た毒きのこオオシロカラカサタケ *Chlorophyllum molybdites* (Meyer ex Fr.) Mass. があり、関東にも分布するが研究学園内では未だ見ていない。後者の孢子紋は灰緑色～緑色なのでそれが白色のカラカサタケとは容易に区別できる。同じくハラタケ科のキツネノハナガサは当実験植物園の温室に発生したもの、この温室内にはヒトヨタケ科のイヌセンボンタケの群生も見られた。

茨城県の少くも1部の住民の間にはイッポンシメジと呼んで食用に供しているきのこがある。イッポンシメジはこれと酷似するクサウラベニタケと共に中毒例の多い毒きのこである。上記住民の間で食用に供されているのはウラベニホテイシメジと確認された。この3種のきのこはよく似ているので識別には注意が肝要である。ウラベニホテイシメジでは傘の表面が白とねずみ色のかすり状の細粉に薄くおおわれるのが特徴なので、ここに注意して他の2者の毒きのここと区別するとよい。また一般にウラベニホテイシメジは他の2者の類似毒きのこより大形のきのこで殊に茎が太く、中

実のことが多く、それが概して細長く、中空のことが多いクサウラベニタケなどとの区別の参考となる。クサウラベニタケとウラベニホテイシメジの両者は筑波山及びその周辺の山地林内で採集される。これらと同属のシメジタケモドキは研究学園周辺農家の梅林などの果樹園の地上に発生する食用きのこで、その発生時期は5月中旬頃までの春季である。これもクサウラベニタケに似た種類だが茎が繊維状な点でこれと区別できる。又シメジタケモドキの発生場所は専ら梅林などの果樹園で、その発生の時期が専ら春であることは他の類似の種類との区別を容易にする。

その他の担子菌類

マツタケ目以外の担子菌は積極的に標本を採集して調査してないが特に目にふれたものの1つとして、筑波山及びその周辺の山地で、特に湿りの著しい沢地に生えた杉の生木幹上にニカワハリタケの発生を観察した。又筑波山周辺の山地では9～10月の頃コウタケが可成りよく発生する。漏斗形で淡い紅色を帯びた褐色のきのこで、傘のうらの子実層托は棘状である。乾くと色は黒味を帯びる。味のよい食用きのこである。この地域ではコウタケと同属のケロウジが屢々混生していた。ケロウジは傘の表面に微細な密毛のある種類で、その味は辛いので食用には適しない。同じく筑波山周辺の山地ではヌメリアイタケのよく発生するところが所々にある。傘の色は青藍色で表面には著しい粘りがあり、傘の裏の子実層托は管孔状で白色である。サンコタケは9～10月頃当筑波実験植物園内や研究学園内各所の林内地上に発生してその奇異な形が注目を惹く。ムラサキナギナタタケは研究学園の住宅周辺に残されたアカマツ林内に10月頃著しく発生する。子実体が単一なホウキタケ科のきのこで、通常束生し、紫色～灰紫色を帯びる。しかし乾くと褪色する。

子囊菌類のきのこについて

筆者は既に筑波研究学園内では1新種を含む興味深いチャワಂತケ類のきのこが採集されることを報告した。その研究は筑波山及びその周辺山地を含めて続行中であるが、これらの山地で特に注目を惹くのは4～5月の春季に発生するエツキクロコップタケとフクロシトネタケである。両者とも目立たないきのこで春季日本各地にその発生を見る分布の広い種類だが、この地域での発生は殊に筆者の目を惹いた。ツバキノガクタケは前年落ちて地中に埋もれたツバキノの萼が菌核化してこれから生ずるチャワಂತケの一種である。原(1919)が記述して以後最近まで余り注目されなかったが、最近その発生が各地で報ぜられる。筑波山では殊にその発生が顕著で、そこに生長するヤブツバキノのほとんど全部の樹下でこのきのこの発生が観察され、その発生の時期は2月中旬頃より4月末頃までと確認された。

キツネノヤリは地中に落ちた桑の実が菌核化して、これから発生する甚だ小形のきのこで珍菌の一つとされる種類である。研究学園周辺農家の桑畑でその発生が確認されている。タンポタケモドキは地下生菌のツチダンゴ類から生ずる冬虫夏草の1種で比較的稀な種類だが、真壁町伝正寺裏の俗称きのこ山で美事な標本が採集され、その発生が確認されている。

採集きのこ目録

以下に筆者が採集し、発生を確認したきのこのリストを示す。この地域に発生するきのこのごく1部にすぎないが将来完璧なきのこのリスト作成の手がかりともなれば幸である。リストには筆者の確認した発生時期と発生場所が平地か山地かの別が記してある。なお山地とは筑波山及び周辺の山

地林内を、平地とは特に指定したもののほかは当実験植物園を含む公園、各研究施設構内に残された林の中を指す。

BASIDIOMYCETES

担子菌綱

HOMOBASIDIAE

同担子菌亜綱

Agaricales

ハラタケ目

Boletaceae

イグチ科

<i>Botetus edulis</i> Bull. ex Fr.		ヤマドリタケ
7～8月,	山地,	地上
<i>B. erythropes</i> (Fr. ex Fr.) Pers.		オオウラベニイロガワリ
9～10月,	山地,	地上
<i>B. ornatipes</i> Peck		キアミアシイグチ
8月,	山地,	地上
<i>B. rubellus</i> Krombh.		コウジタケ
8月,	山地,	地上
<i>Leccinum extremiorientale</i> Sing.		アカヤマドリタケ
9～10月,	山地,	地上
<i>Phylloporus rhodoxanthus</i> (Schw.) Bres.		キヒダタケ
8～9月,	山地,	地上
<i>Pulveroboletus ravenelii</i> (Berk. et Curt.) Murr.		キイロイグチ
8～9月,	山地,	地上
<i>Suillus bovinus</i> (L. ex Fr.) Kuntze		アミタケ
9～10月,	平地及山地,	地上
<i>S. granulatus</i> (L. ex Fr.) Kuntze		チチアワタケ
8～10月,	平地及山地,	地上
<i>Tyropilus neofelleus</i> Hongo		ニガイグチモドキ
7～9月,	山地,	地上
<i>Xerocomus chrysenteron</i> (St. Amans) Quél.		キッコウアワタケ
8月,	山地,	地上

Paxillaceae

ヒダハタケ科

<i>Paxillus involutus</i> (Batsch ex Fr.) Fr.		ヒダハタケ
7～8月,	平地,	地上
<i>P. panuoides</i> (Fr. ex Fr.) Fr.		イチョウタケ
8～9月,	山地,	切株上

Gomphidiaceae

クギタケ科

<i>Gomphidius roseus</i> (Fr.) Gill.		オオギタケ
8～9月,	平地及山地,	地上

Tricholomataceae

キンメジ科

<i>Armillariella mellea</i> (Vahl. ex Fr.) Karst.	ナラタケ
9~10月, 平地及山地,	地上及腐朽木上
<i>A. tabescens</i> (Scop. ex Fr.) Sing.	ナラタケモドキ
8~10月, 平地,	切株及び腐朽木上
<i>Asterophora parasitica</i> (Bull. ex Fr.) O. Kuntze	ナガエノヤグラタケ
9~10月, 平地,	腐朽クサハツ上
<i>A. lycoperdoides</i> (Bull.) Ditmar et S.F. Gray	ヤグラタケ
9~10月, 平地,	腐朽クロハツ上
<i>Clitocybe infundibuliformis</i> (Schaeff. ex Fr.) Quél.	カヤタケ
9~10月, 平地,	地上
<i>Collybia confluens</i> (Pers. ex Fr.) Quél.	アマタケ
5~7月, 平地,	地上
<i>C. dryophila</i> (Bull. ex Fr.) Quél.	モリノカレバタケ
9~10月, 平地,	地上
<i>C. peronata</i> (Fr.) Kummer	ワサビカレバタケ
7~10月, 平地,	地上
<i>Laccaria amethystea</i> (Bull. ex S.F. Gray) Murr.	ウラムラサキ
7~10月, 平地及山地,	地上
<i>L. laccata</i> (Scop. ex Fr.) Berk. et Br.	キツネタケ
7~10月, 平地及山地,	地上
<i>Lepista nuda</i> (Bull. ex Fr.) W.G. Smith	ムラサキンメジ
9~10月, 山地,	地上
<i>Lyophyllum aggregatum</i> (Schaeff. ex Secr.) Kühner	ホンシメジ
10月, 平地,	地上
<i>Marasmius siccus</i> (Schw.) Fr.	ハリガネオチバタケ
9~10月, 山地,	落葉上
<i>Pleurotus ostreatus</i> (Jacq. ex Fr.) Quél	ヒラタケ
9~10月, 平地,	切株及腐朽木上

Amanitaceae

テングタケ科

<i>Amanita citrina</i> S.F. Gray	コタマゴテングタケ
7~10月, 山地,	地上
<i>A. citrina grisea</i> Hongo	クロコタマゴテングタケ
7~8月, 山地,	地上
<i>A. farinosa</i> Schw.	ヒメコナガブリツルタケ
8~10月, 平地及山地,	地上
<i>A. hemibapha</i> Sacc. subsp. <i>hemibapha</i>	タマゴタケ*
8月, 山地,	地上

* タマゴタケの学名には従来 *Amanita caesarea* (Scop. ex Fr.) Pers. ex Schw. が使われたが, これは北方系の種類で日本の本州以南にある傘の周縁に明瞭な線条があり, 茎にはうろこ模様のある種類にはここに記した学名を使用するのが正しいと最近判明した。

<i>A. rubescens</i> (Pers. ex Fr.) S.F. Gray	ガンタケ
9~10月, 山地,	地上
<i>A. vaginata</i> (Bull. ex Fr.) Vitt. var. <i>vinaginata</i>	ツルタケ
7~9月, 山地,	地上
var. <i>alba</i> (Fr.) Gill.	シロツルタケ
8~9月, 山地,	地上
<i>A. virgineoides</i> Bas	シロオニタケ
8月, 山地,	地上
<i>A. volvata</i> (Peck) Martin	フクロツルタケ
Syn. <i>Amanita agglutinata</i> (Berk. et Curt.) Sing.	
8~9月, 山地,	地上
Agaricaceae ハラタケ科	
<i>Agaricus placomyces</i> Peck	ハラタケモドキ
8~9月, 平地,	地上
<i>A. silvaticus</i> Schaeff. ex Fr.	オオモリノカサ
9月, 平地,	地上
<i>Leucocoprinus fragilissimus</i> (Berk. et Rav.) Pat.	キツネノハナガサ
8月, 筑波実験植物園温室内,	地上
<i>Macrolepiota procera</i> (Scop. ex Fr.) Sing.	カラカサタケ
7~8月, 平地,	地上
Coprinaceae ヒトヨタケ科	
<i>Coprinus comatus</i> (Mueller ex Fr.) S.F. Gray	ササクレヒトヨタケ
7~8月, 平地,	地上
<i>Psathyrella candolleana</i> (Fr.) A.H. Smith	イタチタケ
8~9月, 平地及山地,	地上
<i>P. velutina</i> (Pers. ex Fr.) Sing.	ムジナタケ
9~10月, 平地,	地上
<i>Pseudocoprinus disseminatus</i> (Pers. ex Fr.) Kühner	イスセンボンタケ
8月 筑波実験植物園温室内,	地上
Bolbitiaceae オキナタケ科	
<i>Agrocybe erebia</i> (Fr.) Kühner	ツチナメコ
9~10月, 平地,	地上
Strophariaceae モエギタケ科	
<i>Naematoloma sublateralitium</i> (Fr.) Karst.	クリタケ
9~10月, 平地及山地,	切株, 腐朽木上
<i>N. fasciculare</i> (Huds. ex Fr.) Karst.	ニガクリタケ
8~10月, 平地及山地,	切株, 腐朽木上
Cortinariaceae フウセンタケ科	
<i>Inocybe asterospora</i> Quéf.	カブラアセタケ
6~8月, 平地,	地上
<i>I. umbratica</i> Quéf.	シロニセトマヤタケ
9~10月, 平地,	地上

Rhodophyllaceae

イッポンシメジタケ科

Rhodophyllus clypeatus (L. ex Fr.) Quél. シメジタケモドキ

3～5月, 平地梅園など果樹園, 地上

R. crassipes (Imaz. et Toki) Imaz. et Hongo ウラベニホテイシメジ

9～10月, 山地, 地上

R. murraini (Berk. et Curt.) Sing. キイボガサタケ

9～10月, 平地及山地, 地上

R. rhodopolius (Fr.) Quél. クサウラベニタケ

9～10月, 山地, 地上

Russulaceae

ベニタケ科

Lactarius chrysorrheus Fr. キチチタケモドキ

8月, 山地, 地上

L. hatsudake Tanaka ハツタケ

7～10月, 山地及平地, 地上

L. piperatus (L. ex Fr.) S.F. Gray ツチカブリ

7～9月, 山地, 地上

L. subplinthogalus Coker ヒロハウスズミチチタケ

7～8月, 山地, 地上

L. subvellerus Peck ケシロハツモドキ

7～8月, 山地, 地上

L. volemus (Fr.) Fr. チチタケ

7～9月, 山地, 地上

Russula emetica (Schaeff. ex Fr.) Pers. ex S.F. Gray ドクベニタケ

7～10月, 山地, 地上

R. foetens Pers. ex Fr. クサハツタケ

9～10月, 平地, 地上

R. lepida Fr. アカフチベニタケ

8～9月, 山地, 地上

R. nigricans (Bull.) Fr. クロハツ

8～9月, 山地, 地上

? *R. subnigricans* Hongo ニセクロハツ

7月, 平地, 地上

R. vesca Fr. チギレハツタケ

7～8月, 山地, 地上

R. virescens (Schaeff. ex Zanted) Fr. アイタケ

9～10月, 山地, 地上

Gasteromycetales フクキン目

Rhizopogonaceae

ショウロタケ科

Rhizopogon luteolus Fr. et Nordh, emend. Tulasne ホンショウロ

9～10月, 山地, 半地下生

Sclerodermataceae

ニセシヨウロタケ科

Scleroderma cepa Pers.

タマネギタケモドキ

8月,

山地,

地上

Calostomataceae

クチベニタケ科

Astraeus hygrometricus (Pers.) Morg.

ツチグリ

9~11月,

山地,

地上

Lycoperdaceae

ホリコタケ科

Calvatia craniiformis (Schw.) Fr.

ノウタケ

9月,

山地,

地上

Lycoperdon perlatum Pers. ex Pers.

ホコリタケ

8~11月,

山地,

地上

Geastraceae

ヒメツチグリタケ科

Geastrum mirabile (Mont.) Fisch.

ヒナツチガキタケ

8~9月,

山地,

地上

G. saccatum (Fr.) Fisch.

フクロツチガキタケ

8~9月,

山地,

地上

Clathraceae

アカカゴタケ科

Pseudocolus schellenbergiae (Sumst.) Johnson

サンコタケ

9~10月,

平地,

地上

Aphyllophorales

ヒダナシタケ目

Clavariaceae

ホウキタケ科

Clavaria purpurea Muell. ex Fr.

ムラサキナギナタタケ

10月,

平地,

地上

Clavulinopsis pulchra (Peck) Corner

カベンタケ

10月,

山地,

地上

Cantharellaceae

アンズタケ科

Cantharellus infundibuliformis (Scop.) Fr.

ミキイロウスタケ

8~9月,

山地,

地上

Craterellus aureus Berk. et Curt.

トキイロラッパタケ

9月,

山地,

地上

Hydnaceae

ハリタケ科

Hydnum aspratun Berk.

コウタケ

9~10月,

山地,

地上

H. imbricatum L. ex Fr.

シシタケ

9~10月,

山地,

地上

H. scabrosum Fr.

ケロウジ

9~10月,

山地,

地上

Thelephoraceae

イボタケ科

Thelephora japonica Yas.

イボタケ

8~9月,

山地,

地上

T. papillosa Lloyd

ツブイボタケ

8～9月,

山地,

地上

Polyporaceae

サルノコシカケ科

Coriolus versicolor (L. ex Fr.) Quél.

カワラタケ

通年,

平地及山地,

切株, 腐朽木上

Cryptoporus volvatus (Peck) Shear

ヒトクチタケ

7～10月,

山地,

アカマツ樹幹上

Hirschioporus fusco-violaceus (Schröd. ex Fr.) Donk

ウスバシハイタケ

通年,

山地,

針葉樹枯幹上

Lenzites betulina (L.) Fr.

カイガラタケ

通年,

平地及山地,

切株, 枯幹, 腐朽木上

Microporus flabelliformis (Klotz. ex Fr.) Kuntze

ウチワタケ

6～11月,

山地,

広葉樹枯幹, 落枝上

Polyporus yasudai Lloyd

ヌメリアイタケ

9～10月,

山地,

地上

HETEROBASIDIAE

異担子菌亜綱

Tremellales

シロキクラゲ目

Tremellaceae

シロキクラゲ科

Pseudohydnum gelatinosum (Fr.) Karst.

ニカワハリタケ

8～9月,

筑波山,

スギ幹上

Tremella mesenterica Retz ex Fr.

コガネニカワタケ

7～8月,

山地,

倒木, 枯枝上

ASCOMYCETES

子囊菌綱

Pezizales

チャワントケ目

Sarcosomataceae

クロチャワントケ科

Galiella celebica (P. Henn.) Nannf.

オオゴムタケ

8～9月,

山地,

腐朽木上

Pseudoplectania melaena (Fr.) Sacc.

ニセクロチャワントケ

4月,

山地,

腐朽材上

Urnula craterium (Schw.) Fr.

エツキクロコップタケ

4～5月,

山地,

腐朽材上

Pezizaceae

チャワントケ科

Peziza michelii (Boud.) Dennis

フジイロチャワントケ

4月,

平地,

地上

P. vesiculosa Bull. ex St. Amans

オオチャワントケ

9～10月,

平地,

腐植上

Morchellaceae

アミガサタケ科

Morchella conica Pers.

トガリアミガサタケ

4月,

山地,

地上

M. esculenta Fr.

アミガサタケ

4~5月,

山地,

地上

Helvellaceae

ノボリリュウ科

Helvella lacunosa Afz. ex Fr.

クロノボリリュウ

7~9月,

山地,

地上

H. leucomelaeana (Pers.) Nannf.

カバイロサカズキタケ

4月,

平地,

地上

Helvella macropus (Pers. ex Fr.) Karst.

ナガエノチャワンタケ

9月,

山地,

地上

Rhizinaceae

ツチクラゲ科

Discina perlata (Fr.) Fr.

フクロシトネタケ

4~5月,

山地,

腐朽木上

Gyromitra infula (Schaeff. ex Fr.) Quél.

トビイロノボリリュウ

9月,

平地及山地,

腐朽木上

Pyronemataceae

ピロネマ菌科

Anthracobia melaloma (Albertini & Schw. ex Fr.)

ヒメウロコベニチャワンタケ

Boud.

9月,

平地,

地上

Pulvinula constellatio (Berk. et Br.) Boud.

マルミノコベニチャワンタケ

9~10月,

平地,

地上

Helotiales

ビョウタケ目

Hyaloscyphaceae

ヒナノチャワンタケ科

Arachnopeziza aurelia (Pers. ex Fr.) Fuckel

クモノスアカゲチャワンタケ

4~5月,

平地,

落葉上

Dasyscyphus virgineus S.F. Gray

シロヒナノチャワンタケ

4~5月,

山地,

ブナの落果上

Sclerotiniaceae

キンカクキン科

Ciboria rufo-fusca (Weberb.) Sacc.

4~5月,

山地,

地上に落ちたモミの果鱗上

Ciboria shiraiana (P. Henn.) Whetzel

4~5月,

平地, 桑畑附近,

クワの落果上

Moellerodiscus pinicolus Otani

マツバチャワンタケ

5月,

平地,

マツの落葉上

Scleromitrlula shiraiana (P. Henn.) Imai

キツネノヤリ

5月,

平地, 桑畑附近,

クワの落果上

Sclerotinia camelliae Hara

ツバキノガクタケ*

2～4月,

山地,

土中に埋没したツバキの萼片より生ず

Leotiaceae

ビョウタケ科

Hymenoscyphus rufocorneus (Berk. et Br.) Dennis

7～8月,

山地,

腐朽材上

Clavicipitales

バクカクキン目

Clavicipitaceae

バクカクキン科

Cordyceps japonicus Lloyd

タンポタケモドキ

8月, 真壁町伝正寺裏山 (俗称きのこ山)

ツチダンゴ (地下生菌) より生ず

C. militaris (L. ex St. Amans) Link

9～10月,

山地,

鱗翅類昆虫の蛹より生ず

Summary

Tsukuba Academic New Town was constructed recently in a pastoral region located about 50 kilometers northeast from Tokyo. Small patches of forest including planted *Pinus densiflora*, *Quercus serrata* and *Q. acutissima* are remained among and in the sites of various new institutions in the Town. And orchards of pear, plum, chestnut and mulberry are also frequently encountered. In Mt. Tsukuba (876 m), which is situated at the north end of the Town, a warm temperate evergreen forest dominated by *Quercus myrsinaefolia*, *Camellia japonica* etc., covers the slope and a cool temperate deciduous forest consisting of *Fagus crenata* occupies the summit area.

In these situations kinds of mushrooms are growing there all the year round except in cold winter. The present writer has observed the mushrooms growing there for about six years, since his laboratory moved in the Tsukuba Botanical Garden from Shinjuku, Tokyo in May of 1977. Some of his observations on the mushrooms are noted here with the list of collected specimens.

In the Agaricales the occurrences of nine species of the genus *Amanita* are noted. Mushrooms classified in the Boletaceae and the Russulaceae are abundantly observed from summer to autumn. In July one of the huge mushrooms, *Macrolepiota procera* (Scop. ex Fr.) Sing., is often growing here and there in the Town attracting the attentions of the inhabitants.

In the Aphyllophorales the growth of *Hydnum aspratium* Berk. mixed with *H. scabrum* Fr. is noted in the mountainous regions adjacent to Mt. Tsukuba. Also in the mountainous region there are patches where the growth of *Polyporus yasudai* Lloyd with

* この菌は落下して土中に埋もれた萼片が菌核化し、これよりきのこを生ずるもので、遊離の菌核より生ずる菌に用いられる属 *Sclerotinia* から他属に移籍すべきものである。しかしここでは都合によりしばらく元の学名を用いておく。

blue-colored, viscid pileus are remarkable in autumn. In October *Clavaria purpurea* Muell. ex Fr. often grows in the forest adjacent to the residences.

As already reported by the present writer (1979), interesting species of cup fungi are growing in the Academic New Town: *Moellerodiscus pinicolus* Otani was described as a new species on fallen leaves of *Pinus thunbergii*; *Ciboria shiraiana* (P. Henn.) Whetzel and *Scleromitrlula shiraiana* (P. Henn.) Imai, which were collected from the sclerotized mulberry fruits, are rare fungi and are sometimes found in the present area of the spring time; *Discina perata* (Fr.) Fr. and *Urnula craterium* (Schw.) Fr. are abundantly growing also in spring in the mountainous region.

Good specimens of *Cordyceps japonicus* Lloyd, one of the rare species growing on *Elaphomyces* sp., were collected in the mountainous region adjacent to Mt. Tsukuba.

参 考 文 献

- 原 攝祐, 1919. ツバキの菌核病に就て. 大日本山林会報. 436号.
今関六也, 本郷次雄, 1957. 原色日本菌類図鑑. 保育社. 大阪.
——, ———, 1965. 統原色日本菌類図鑑. 保育社. 大阪.
伊藤誠哉, 1955, 日本菌類誌. 2巻4号. 養賢堂, 東京.
——, 1959. 同上. 2巻5号, 養賢堂, 東京.
布村公一, 1980. *Sclerotinia camelliae* の採集記録とその和名について, 日菌報 21(4): 521-522.
Otani, Y., 1979. Notes on some interesting cup-fungi in Tsukuba Academic New Town. Bull. Natn. Sci. Mus. Tokyo, Ser. B (Bot.) 5: 51-60.
大谷吉雄, 1980. 日本産ベニチャワンタケ亜目. 日菌報 21: 149-179.